

「横浜清陵総合高等学校での インターンシップ3週間」

東海大学 3年 内田一輝
横浜商科大学 3年 柏木愛子
桐蔭横浜大学 3年 宮下明子
神奈川大学 3年 森脇陽介

【指導者】横浜清陵総合高校 教諭 五十嵐誠

【インターンシップの概要】

今年の8月6日から横浜清陵総合高校で情報科教員の免許取得を目指す学生を対象としたインターンシップが3週間にわたって行われました。インターンシップ中に2度開講された「DTP 基礎」という集中講座を利用し、学生は1度目の授業で授業内容を理解するためにTAとして授業に関わり、2度目ではその経験を活かして実際に授業を行いました。以下にその活動を通して私達の意見を述べたいと思います。

【情報科教員を育成する上での問題点】

2003年度に教科となった「情報」は未だに体制が整ってなく、不透明な部分が多いと感じています。その影響は情報科の教員を育成する場にも影響を与えています。例えば、大学の先生方自身が「情報」の授業を受けていない事もあり、大学において教員を目指している学生に対して特定の分野に偏った授業しか行われていない事が少なくありません。

その結果、プログラミングは出来ても、普通教科「情報」のABCを十分に理解していないような学生が増えて、教育実習の場で初めて苦勞するような状況が生まれています。その結果ご指導頂く先生、そして何より生徒達に迷惑が掛かってしまいます。

ある大学の生徒は、情報での教育実習の受け入れ先が少ないという理由から、情報の代わりに中学校で数学を教えることを余儀なくされた生徒もいたそうです。

このような状況で、教育実習を行う前にインターンシップを受けることは沢山のメリットがあります。

【インターンシップで得られたもの】

このインターンシップは短期集中の講座で生徒達が1単位の授業を通じて成長する様子を全て見る事が出来ました。実習の授業を通して教える為の技術を学び、生徒達と触れ合ううちに教育に対する情熱を再確認出来ました。また、総合学科で勉強する事によって色々な先生方のお話を聞く機会にも恵まれ、教育に対する新しい価値観が増えました。

【インターンシップを薦めたい理由】

私達がこのインターンシップを薦めたい理由は、教育実習の前に実際の教育現場を見ておく事によって、教育に対する心構えの準備出来ることです。また、夏休みを有効活用することによって教育実習に向けての目標や意識を向上させると共に、教員としての向き・不向きを早期に知ることが出来るので新しい道を考える時間も増えます。

【教育実習とインターンシップの比較】

これらの話から、教育実習でも同じことが出来るとお考えになる方も居るかもしれませんが、この短期集中のインターンシップの良さは何より授業一点に集中できるので、教え方の勉強に専念する事が出来ます。更に生徒の成長の過程を全て見届ける事が出来ます。

一方、教育実習では授業の他に事務的な処理や特別活動があるので、授業だけに専念する訳にはいきません。従って生徒と関わる時間も少なく、生徒の成長の過程を見ることが出来ません。

【終わりに】

3週間の実習に参加して、本当に沢山の事を学ぶ事が出来ました。実習の前と後では本当に教育に対する意識が変わってきました。このような取り組みが今後、益々増える事を願っています。

最後に様々な話をして下さった先生方、そして夜遅くまで熱心にご指導して下さいました五十嵐先生、清陵総合高校の先生方。本当にどうもありがとうございました。

